



西小だより

桐生市立西小学校
令和7年度
NO.16
令和7年12月23日
発行：校長



もうすぐ冬休みです！休み中は、家族団らんでエネルギーの充電を！

夏休みを終え、厳しい残暑が続く中、始まった2学期でしたが、まもなく終業式を迎えます。2学期は、学校行事や子どもたちが活動の成果を発表する機会が多いことから充実期といわれます。

西小の子どもたちは、文字どおり「充実」した学校生活を過ごすことができたと思われます。運動会や陸上記録会、持久走大会、修学旅行・校外学習、授業参観、親子行事などでは、保護者の皆様にも大変お世話になりました。子どもたちの活躍の一端は「学校だより」や「学級だより」、「通知表」の所見欄等に記載されていますので、後ほどご覧いただければ幸いです。

冬休みは2週間ほどです。年末年始と重なり、各ご家庭ではお忙しいと思われますが、子どもたちと一年を振り返ってみたり、新年の目標や決意などをじっくり語り合ったりしながら家族で過ごす時間を大切にしてください。また、子どもたちは家族としての役割を与えていただき、子どもたちにできることは家族の一員として可能な限り任せていただくようお願いします。また、地域の行事などがあれば積極的に参加するなどして、普段はあまり接する機会のない学校以外の方々や世代の異なる人たちと接することも子どもたちの成長にとって大切なことだと思います。

3学期の始業式は1月8日（木）です。西小の子どもたちが、それぞれのご家庭で楽しく過ごしエネルギーを蓄えて、元気に登校してくれることを楽しみにしています。よい年をお迎えください。



第2回学校保健委員会 開催しました！

12月17日（水）第2回学校保健委員会を開催しました。インフルエンザの流行と重なり、前回よりも少ない参加者となりましたが、児童保健委員会の代表の子どもたちから活動報告、学校から「がん教育」の実践報告、今後の学校保健委員会のあり方（テーマ、開催時期）等についての協議を行い、活発な意見交換ができ、充実した委員会となりました。皆様からいただいたご意見を参考に今後もよりよい委員会になるよう改善して参ります。

学校歯科医からの講評では、子どもたちの学校保健活動の評価や「がん教育」の取組の重要性について、県教育委員会からは、西小の先進的な「がん教育」の取組の評価や感謝の言葉に加え、「西小の取組を県内に広く発信したい」との発言がありました。PTA会長からは、「あらためて西小の保健衛生指導が充実していることを実感できた。今後の委員会のあり方について、協議した内容を持ち帰り、より充実した委員会となるように検討したい」との言葉をいただき閉会しました。



【学校保健委員会での協議の様子】

2025年（昭和100年）流行語は「働いて働いて働いて働いて参ります」 漢字は「熊」でした

今年の夏は暑い日が続きました。8月5日には桐生市で41.2°Cを記録、当時日本歴代最高気温を更新しました。（その後、伊勢崎市が41.8°Cを記録し、桐生市の41.2°Cは全国4位の記録となりました。）インフルエンザの流行も早まり、例年は1～2月にピークを迎えることが多かったのですが、今年は11月に学級閉鎖を余儀なくされ、持久走大会も分散開催となりました。熊や野生動物の頻繁な出没にも注意を払う年に…。このように、子どもたちを取り巻く環境は、私たちが育った頃とは大きく異なり、新たな課題への対応が求められています。

そんな中でも西小の子どもたちは、様々な場面で活躍してくれました。県陸上記録会女子幅跳びで県1位、県統計グラフコンクールで最優秀など、近年なかった好成績も残してくれました。また、表彰される子どもたちが増えたことで、学校では表彰集会を新たに設ける対応もさせていただいている。子どもたちは、未来の宝物…。家庭・地域・学校が、しっかりと連携・協力しそれぞれの得意とする分野を活かし、2026年も連携・協力して健やかな子どもたちを育ていきましょう。

<お知らせ>

右のQRコードから西小のWebページをご覧いただくと、過去の「学校だより」等がご覧いただけます。



西小ホームページ

西小の取組紹介⑯

がんばっている西小の子どもたちや先生方を紹介します！



PTA教養文化部 フラワーアレンジメント教室開催



【集中して制作する参加者の方々】

12月4日（木）PTA教養文化部のみなさんが企画・運営してくれ、flower designerを講師にお招きし、「フラワーアレンジメント教室」が開催され素敵な時間を過ごすことができました。

当日は、多くの保護者のみなさん（+教頭先生）に参加していただき、交流を深めることができました。花がもたらす癒やし効果には、①リラックス効果、②ストレス軽減効果、③幸福感の向上が期待されているそうです。家庭や仕事、子育てなどのストレスを感じた時に花にふれてみるのもよいと思います。

今回、素敵な講座を企画・運営してくれた教養文化部の皆様ありがとうございました。

4年生 介護福祉体験学習

11月25日（火）東京福祉大学の先生や卒業生の皆さんを講師にお招きし、4年生が介護福祉体験学習を行いました。子どもたちは、車椅子体験をしたり、白内障を擬似的に体験できるゴーグルや手袋をつけたりして、お箸でものをつかむといった普段はあたり前にできることに不自由を感じることで、介助者の支援の必要性やありがたさを感じてくれたようです。



【ゴーグルと手袋をつけて疑似体験する4年生】

2年生 人権教室開催

11月25日（火）2年生が人権擁護委員の方々を講師にお招きして、人権教室を開催しました。

紙芝居を使って間違ったり、勘違いをしたりして、友だちの心を傷つけてしまったときのそれぞれの立場

（傷つけてしまった人、言われて悲しかった人、まわりについて同調してしまった人、関わらなかった人など）の気持ちをわかりやすく伝え、「どうすべきか？」をみんなで考える授業でした。子どもたちからは「まちがえたらあやまる」「なかなかおりてきてよかったです！」などたくさん意見が出て、どうすべきであったかを考えることができました。



【紙芝居を見て考える2年生】

「できない」を「できる」に変える思考法

先月アメリカで行われた野球のワールドシリーズを見て多くの人が熱狂しました。その試合で活躍した日本人選手の一人、今や野球のことはよく知らない人でも、大谷翔平選手を知らない人はいないでしょう。今までの常識にとらわれず、投手と打者の両方をこなす「二刀流」で、米大リーグ（MLB）で活躍するプロ野球選手です。彼の真摯な人柄や謙虚な姿勢、そして常に高みを目指す向上心から、彼の話題をニュースで聞かない日はなく、そして、世界中の人々から愛されています。

先日、そんな彼の思考法に触れる機会がありました。私たちは、大谷選手は自分たちにはない凄い才能をもった特別の人と思いがちです。もちろん、自分たちにはない身体能力や環境が、彼にはあったのかもしれません。しかし、どうやら才能や特別な能力だけではなかったようです。彼は、プロセス（過程）を徹底的に追求することの大切さを誰よりも理解して、「結果」ではなく「プロセス（過程）」に意識を置いています。それが、世界で活躍し続けることができる所以のようです。

彼は「大きな夢は小さな目標の総量である」、「1日単位で完全燃焼！」の覚悟をもって、常に目の前にある「小さな行動の完遂」や「小さな目標の実現」に果敢に取り組みました。その小さな習慣こそが偉大な成果を上げる必須の要素だったようです。最高の自分にめぐり逢うため、「昨日より今日、今日より明日」を考え、「できない」を「できる」に変えるため、失敗を恐れず挑戦する。そのような「ポジティブな思考（前向きさ）」が彼を支えていたのです。

私たちも大谷選手のようにポジティブな思考を意識することで、小さな「できる」を増やしてみませんか？

校長室から

